

皆さん、こんにちは。簡単に昨日のワークショップについてお話をさせて頂きます。ワークショップの間に様々な問題が出てきますが、ピエモンテ、宮城それぞれの産業システムには非常に類似点があるということが分かってきました。つまり両方のケースにおいて多くが中小企業であるというのが大きな共通点です。数字を挙げさせて頂きますとピエモンテの場合は人口450万人ですが85%の企業が50人以下の企業です。またピエモンテ州は非常に様々な企業がありますが、中小企業が中心となって非常にハイテク技術を持っております。また宮城、トリノの場合は大学が存在というのも共通点です。トリノ工科大学は2万8000名の学生があり、学部は工学部・建築学部のみです。18%の学生が60以上の国から留学してきております。トリノ工科大学は400の機関と様々な協定を結んでおりまして、日本とも10ほどの協定を持っております。日本の様々な機関とリサーチ活動や研修活動など非常におもしろいプログラムを抱えております。私どもの大学はだいたい3億8000万の予算を持っておりまして、そのうち12%が国家からの予算でその他はわれわれがリサーチ市場、そしてわれわれの研修などから調達している予算です。私たちは新しいキャンパスを作りましたが、その中に伝統的な大学としての機能とともに技術移転、サービス移転、そしてファイナンスという部分もこのキャンパスの中に取り込みました。またキャンパス内に18もの企業の研究センターそして110の企業をここで育てており、3000の就職雇用を創出しております。これは様々な社会、経済ニーズに応えるものです。

ナノテクノロジー分野は3つの要素、つまり教育、リサーチ、技術移転の3点に絞って活動を行っております。教育の部門に関してはマスターコースを持っておりまして、マスター・オブ・サイエンスといいますが、これはローザンヌ・ブルノーブルの大学と協定を持っております。300~400名が申請をし、選ばれるのは60名と非常に狭き門となっております。これらの学生は6ヶ月をブルノーブル、残りの6ヶ月をローザンヌで過ごすというプログラムになっております。ということで、毎年60名の学士卒業生たちを企業に送り込むことが出来ます。1999年以降我々はキーラボという研究所を持っております。このキーラボの目的はいくつかありますが、まずは基礎研究と素材研究があります。2つのプロジェクトはバイオ分野の応用によるものです。第三の目的は技術移転に関わるものです。こうしたバリューチェーンのもう一つの役割は2004年に作られたラテマルというラボでイタリア教育相からの予算によって作られました。ミクロナ・ナノテクノロジーの部門を診断しシステムを作りそれをバイオメディカル、薬品などの部門あるいは農業、食品化学に応用していくというものです。この部門に関してはエイジング・ソサエティーに関する問題も扱っております。

我々の作業は研究から始まりますが、技術移転というのも重要視しており2007年にはテクノロジー企業を作りましてプロトタイプの生産を行っております。1万プロトタイプを作ることが出来ます。実際の商品化に繋がる前のプロトタイプを作るラボが必要という地方のニーズに応えたものです。特にこれはセンサー部門で活用されています。2009年にはイタリアのテクノロジー大学の協力企業が出来まして、ニューマンスペース・ロボティクスというテーマもあります。これはもちろん教育部門、研究部門と合わせて持つだけでなく、中小企業を含む企業との密接な協力活動を

行っています。先程申し上げたラテマルという教育センターも多くの中小企業の協力を得ています。またテックファブについては様々なファンタシートを持っています。2つの中小企業ですが、これもイングレア地方の中小企業との協力関係を行っています。ナノテク部門の活動については今回話がなされました。およそ300名の卒業生がありまして、社会、経済システムの中に取り入れられ活用されていることを最後に付け加えさせて頂きます。